

学生プロジェクトチームによる科学啓発活動の学生教育効果

Educational effects for university students through science promotion activities

to be performed by a university-student project team

○長谷川 誠*、手島 駿 (千歳科学技術大学)

○Makoto Hasegawa*, Shun Teshima (Chitose Institute of Science and Technology)

*E-mail: hasegawa@photon.chitose.ac.jp

1. はじめに

学生の自主性を重視したプロジェクトチーム「理工工房」は、平成 26 年度(2014 年度)も地域における科学啓発活動を積極的に展開した。約 10 年間に渡って活動を継続的に展開する中で、参加学生に対する教育効果が大きいことが明らかになってきた。この点について、地域の諸団体・機関と連携した PBL スタイルの活動であることが有効に作用していると共に、本チームの活動が科学啓発を目的にしていることが、特に顕著な要因であると考えられる。

2. 平成 26 年度の活動の状況

図 1 に、活動開始時からの年度毎の活動件数の推移を示す(平成 26 年度は 12 月末現在の実績)。平成 26 年度は、12 月末時点で活動件数が既に 67 件となった。年度末には 76 件となり、過去最高件数に達する見込みである。

3. 科学啓発活動であることの効果

学生プロジェクトチームによる本活動は、参

加学生の主体的・自律的な行動が求められる点で、実質的に新スタイルの教育プログラムとして機能している。さらに、本活動が科学啓発活動であることによる効果として、以下が挙げられる：(1)多様な相手を対象とした活動になり、状況に応じた臨機応変な対応が求められる、(2)多くの活動を反復的に且つ多様な形態で実施できるとともに、再チャレンジの機会を獲得できて成功体験や自らの成長の実感が得やすい、(3)相手の反応がすぐに分かり応用力の実践的な養成・訓練が可能である、(4)活動に対するハードルが低く、参加・継続が容易である。

4. おわりに

活動形態が多様で且つ件数が非常に多いことが、先行事例に見られない本活動の特徴である。多様な形態の活動を反復的かつ継続的に経験することができ、前回の活動結果に基づく反省・改良を容易に短期間のうちに実践できる点は、キャリアアップ教育の観点から重要である。

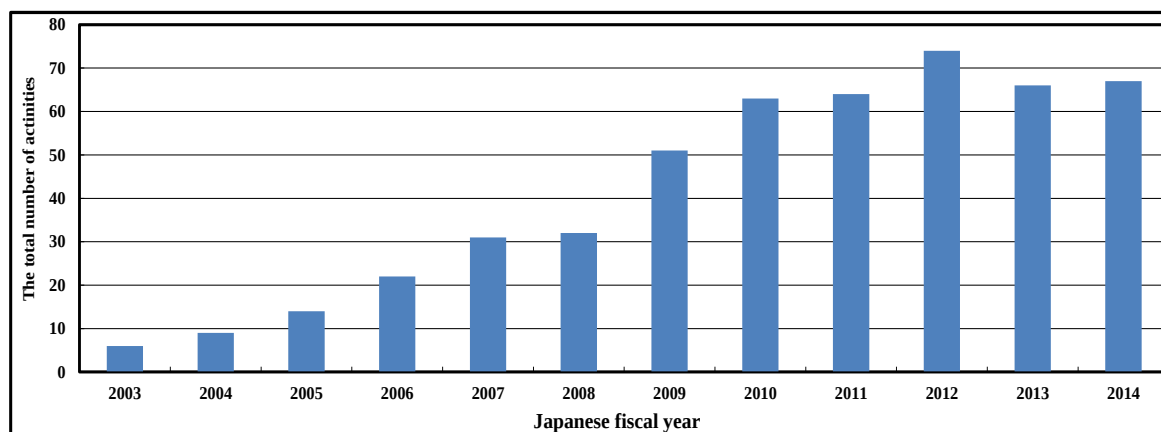


図 1 理工工房の年度毎の活動件数の推移